

れんこんバーグ (糖尿病の予防)



エネルギー=137kcal、たんぱく質=4.5g、脂質=1.4g、塩分=1.6g

材料(6人分)
れんこん500g、しょうが20g、青しそ30枚、長ねぎ2本、片栗粉大さじ6、塩・こしょう少々、ごま油少々、酢しょうゆ大さじ6、大根おろし5cm、もやし200g、にら100g、人参20g、ミニトマト6個

作り方

- ①しょうが・青しそ・長ねぎをみじん切り、人参をせん切りにし、にらを3~4cmの長さに切る。
- ②れんこんを洗い皮のまますりおろす。汁は軽く絞って片栗粉・しょうが・青しそ・長ねぎ・塩・こしょうを混ぜ合わせ、12等分にして円形にまとめる。
- ③フライパンにごま油をひき、②を弱火で蓋をしたまま2分ほど焼く。固まってきたら裏返して焼く。
- ④付け合せのもやし・にら・人参を茹でて絞る。

(食生活改善推進協議会)

アイドル登場

見るものすべてに興味津々!

海老澤奨英くん(1歳1カ月・下大野)



最近では歩くのも上手になり、見るものすべてに興味津々で目をキラキラさせています。換気扇、扇風機など回るものが大好きで、どこかへ出かけても回るものを見ると、止まってそこから動こうとしません。指さして、楽しそうにしています。

奨英、うちの子に産まれてきてくれてありがとう! パパとママはあなたの笑顔が大好きです。

(父:真一さん・母:房子さん)

古河風土記

博物館外交
わがまち古河の親善大使

さきごろ、「古河大使」の制度が発足し、(12ページ参照)先般、最初の委嘱状が、作家の永井路子氏に手渡されました。

大使といえは重要です。いわば「外交」を通じて、わがまち古河の同一性をさまざまな地域へ伝えゆくことは、換言すれば、古河固有の歴史と文化を自在に表現するということにはかなりません。永井氏の大使就任は、もっともふさわしい人選といつてよいでしょう。

ところで、今からちょうど百年前のこと。明治39年、わがまち古河には、すでに「大使」同様、ながい歴史の中で育まれた古河文化の宣伝を担った一群が存在していました。この難しい職責を全うしたものの正体、それは、わがまちの文化財たちであったのです。

上野の東京帝室博物館(現 東京国立博物館)における、この年の特別展に「嘉永以前西洋輸入品及参考品」というものがありました。この展覧会には、古河の鷹見邸(現 鷹見泉石記念館)から214点もの文化財が陳列されています。

その3年後には、英国ロンドンにて、「鷹見泉石像」が公開されることにな



▲博物館外交を担う文化財 (彩色鉛兵隊人形)

りました。古河の顔というべき文化財が、日本代表の文化財として渡航したのです。この国宝画像を除くすべての鷹見泉石関係資料が、現在、当館の所蔵品となっていることは申し上げるまでもないでしょう。個別のタイトルが表示された古河渡りの「外交官」たちは、一様に、わがまち古河の歴史と文化を解説する文にいろど彩られて、雄弁にその存在をアピールしたのでした。

さて、下つて、こんにちのはなし。鷹見泉石関係資料(国重要文化財)をはじめ、古河歴史博物館には、いずれ劣ることのない数万点におよぶ文化財がたいせつに保存されています。

そして、これらの文化財には、少なくとも毎年4~5件、全国各地の博物館から展示公開の要望が寄せられてきました。北は岩手県から、南は長崎県まで。そして、近隣では一都六県すべての都・県立博物館、もちろん東京国立博物館も例外ではありません。変わり種ではオランダ国営のアムステルダム海事博物館というのもありました。開館から17年を経た現在、博物館の「古河大使」たちは、いわばあらゆる地域の招待を受けて、わがまち古河の存在証明の旅を続けているのです。

(古河歴史博物館 学芸員 永用俊彦)

平成19年7月1日発行
●発行所/〒3061029 1 茨城県古河市下大野2248 古河市役所 ☎0280(92)3111
●編集/広報広聴課 ●ホームページ/ <http://www.city.furukawa.lg.jp>